

本年もよろしく

お願いいたします

岩手県職員労働組合
役員一同



岩手県職労

号 外=新年特集号

2021年1月1日 発行

発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジロー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む



2021年 迎春



仲間の結束で 禍を乗り越える年に

— 大変な中でも 働き方はこだわろう —

2021年 今年もよろしくお祈りします

- 中央執行委員長 大崎 勝 弘 (花巻支部・花巻農林振興センター分会)
- 副中央執行委員長 小田嶋 智 昭 (胆江支部・土木部分会)
- 副中央執行委員長 小澤 豊 和 (県庁支部・資源循環推進課分会)
- 書記 長 佐々木 辰 治 (県庁支部・建築住宅課分会)
- 書記 次 長 藤村 秀 樹 (盛岡支部・保健福祉環境部分会)
- 中央執行委員 佐々木 結 麻 (一関支部・県税センター分会)
- 中央執行委員 熊谷 剛 (胆江支部・産業技術短大水沢校分会)
- 中央執行委員 千葉 美由喜 (盛岡支部・盛岡農業改良普及センター分会)
- 中央執行委員 千葉 拓 也 (盛岡支部・県税部分会)
- 中央執行委員 菊池 勉 (県庁支部・管財課分会)
- 中央執行委員 口岩 喜 幸 (宮古支部・宮古土木センター分会)
- 中央執行委員 佐藤 佳 之 (県庁支部・河川課分会)
- 中央執行委員 佐藤 拓 (胆江支部・保健福祉環境部分会)
- 中央執行委員 宮手 公 輔 (盛岡支部・環境保健研究センター分会)
- 中央執行委員 樋口 晃 大 (盛岡支部・総務事務センター分会)
- 県庁支部長 佐々木 琢 磨 (産業経済交流課分会)
- 盛岡支部長 長沼 英 友 (盛岡広域振興局土木部分会)
- 花巻支部長 藤原 茂 (県南広域振興局花巻県税センター分会)
- 北上支部長 仲條 真 介 (農業研究センター分会)
- 胆江支部長 佐々木 浩 由 (県南広域振興局土木部分会)
- 一関支部長 平中 清 人 (一関児童相談所分会)
- 気仙支部長 佐藤 勝 志 (沿岸広域振興局大船渡地域振興センター分会)
- 釜石支部長 小原 大 (沿岸広域振興局水産部分会)
- 宮古支部長 多田野 修 (宮古農林振興センター林務室分会)
- 久慈支部長 小野寺 光 文 (県北広域振興局水産部分会)
- 二戸支部長代行 長 嶺 達 也 (二戸農業改良普及センター分会)

県職労の取組みについて、賃金面では人勧が遅れ、闘争期間が短期間となったため、十分な取組みとならず、学習の機会も十分持てませんでした。

皆さん、明けましておめでとございます。新年にあたり一言ごあいさつを申し上げます。まず、新型コロナウイルス感染症対策に最前線で対応している皆さんに敬意を表します。また、各職場でも感染症対策をしながら業務を工夫し進めている皆さんについても、改めて敬意を表します。昨年は新型コロナウイルス感染症により、多くの流れを変えなければならぬ年でした。業務では会議や研修が制限され、必要な情報や知識の取得が不十分のため、進捗に影響が出たり、結果が十分ではなかったりなど、様々な影響があったと考えています。



中央執行委員長
大崎 勝 弘

結果として、賃金水準は維持を勝ち取る事が出来たものの、継続課題の手当や休暇等の改善については据置く結果となりました。そうした中、今回の取組みから、感染リスクの高い取組みは自粛する必要があるものの、必要な取組みは工夫して取り組み、前進する必要があることも確認できたと考えます。加えて、職場を改善するために、多くの仲間が県職労に結集していくことも大切です。昨年、当局は感染症予防として、一方的に労働条件変更を通知しました。全国的な情勢もあり、必要やむを得ない側面はありますが、逆に職場に混乱をもたらすものとなりました。「おかしいこととおかしい」と声を上げなければ、一層の混乱が生じ、それで苦勞するのは職場で働く私たち労働者です。声を大きくするためには多くの仲間が必要で、話し合い、確認しあうことが必要です。さらに多くの仲間の声を集めるため、県職労への加入を勝ち取っていきましょう。距離をとりつつも、仲間と結束し、一つ一つ前進させていくことが必要です。厳しい状況は続きますが、みんなで一つ一つ乗り越える年にしていく決意を申し上げます。

職場紹介

福祉総合相談センター分会
中部農業改良普及センター・西和賀普及サブセンター分会
内水面水産技術センター分会
千厩高等技術専門校分会

県職労には数多くの分会があり、その規模も職種も様々です。組合員の皆さんは、第一線で日々仕事をしながら、職場環境の改善を求めて頑張っています。

今年、盛岡支部「岩手県福祉総合相談センター分会」・「内水面水産技術センター分会」、北上支部「中部農業改良普及センター西和賀サブセンター分会」、一関支部「千厩高等技術専門校分会」の4分会を紹介いたします。

激増する相談・正規職員の増員を

若々しい職場で日々連携して業務

岩手県福祉総合相談センター分会

岩手県福祉総合相談センターは、4月1日時点で職員158人(うち74人が正職員)、児童女性部と障がい保健福祉部の2部体制で構成され、児童女性部では児童に関する相談及び女性

に関する相談、障がい保健福祉部(精神保健福祉センター)では身体障がい・知的障がいに関する相談及び心の健康・精神障がいに関する相談に対応した業務を行っています。

それぞれの業務についてですが、児童女性部のうち児童相談第一課では児童虐待を、児童相談第二課では、児童養護、障がい、非行育成相談等の相談業務を行っています。女性相談課では里親委託や施設入所措置、女性支援、一時保護等に関する業務を行っています。

障がい保健福祉部では身体・知的障がい担当では補装具や身体障害者手帳、療育手帳等に係る相談業務、精神障がい担当では、障がい者の社会復帰支援、自殺予防、ひきこもり支援等に関する相談業務を行っています。



▲岩手県福祉総合相談センター分会の皆さん



▲中部農業改良普及センター・西和賀普及サブセンター分会の皆さん

当センターは、出先機関としては20歳代の若手職員が多く配置され、訪れる相談者にも10〜20歳代の女性、18歳未満の児童も多いことから若々しい職場となっております。

出勤があったり、宿直・日直があつて家でゆっくり休めないなど大変なこともありますが、組合員をはじめ職員間で助け合つて何とかこなしています。

おかげさまで、年度当初から児童相談第一課に増え続ける児童虐待相談に対応するため児童福祉司が4人、児童相談第二課に児童心理司1人、女性相談課に里親専門の児童福祉司1人と主事1人増員で配置されましたが、それでも多忙な状況にあるため、今後も正規職員の増員が必要であると考えています。

農業技術・営農支援に全力

業務推進には職場環境改善が必要

中部農業改良普及センター・西和賀普及サブセンター分会

中部農業改良普及センター西和賀普及サブセンターは、西和賀町を管轄し、職員5人の少人数で、町内に単独事務所を構え、業務を行っています。

西和賀町は、奥羽山脈に囲まれた盆地にあり、冬は2m以上の積雪となる豪雪地帯で、ぶなの原生林に覆われた豊かな自然と、和賀川の豊富な水資源に恵まれた地域です。湯本温泉、湯川温泉、果郷温泉など豊富な温泉にも恵まれ、春にはカタクリの群生や水芭蕉、秋には錦秋湖で、県内屈指の紅葉を楽しめるなど、四季折々の自然が満喫できます。

このような自然豊かな風土の中、当所では、作物・花き・野菜・地域特産作物(わらび等)の生産性向上のための技術支援や、新規就農者の確保・育成、集落営農組織・生産組織の営農

出勤があったり、宿直・日直があつて家でゆっくり休めないなど大変なこともありますが、組合員をはじめ職員間で助け合つて何とかこなしています。

おかげさまで、年度当初から児童相談第一課に増え続ける児童虐待相談に対応

するため児童福祉司が4人、児童相談第二課に児童心理司1人、女性相談課に里親専門の児童福祉司1人と主事1人増員で配置されましたが、それでも多忙な状況にあるため、今後も正規職員の増員が必要であると

岩手オリジナル養殖用種苗開発へ

職員総出で水産研究の最前線で活躍

内水面水産技術センター分会

内水面水産技術センターは八幡平市に単独の事務所を構え、職員6人、任用職員3人の計9人で、現在は主にサクラマスの種苗生産及び放流技術開発や水産物の病害虫防除、マス類の養殖用種苗生産に関する試験研究に取り組んでいます。

サクラマスについては、いわて県民計画において2022年までに漁業関係者の協力による種苗放流体制の確立を目標の一つとして掲げ、当所では種苗生産技術開発のため、50万尾の種苗を生産することを目標としており、2020年春にこれを達成しました。

水産物の病害虫防除については、魚病等による漁業被害の低減やまん延防止、水産用医薬品の適正使用による食の安全・安心を促進するため、養殖漁業者からの魚病検査依頼への対応や、最新情報に基づいた水産用医薬品の適正使用について指導を行っています。

また、サケ・マス類の刺身需要の増加やご当地サーモンブームを受け、県内の

町に設置されている県立職業能力開発施設で開設されています。当校は、二級自動車整備士養成施設として自動車システム科(2年課程)を設置し、基礎的な学科実技をべー



▲千厩高等技術専門校分会の皆さん

現在、自動車システム科には指導員が4人(うち会計年度任用職員が2人)配置されていますが、それでも職員は多忙な状況にあるため、正規職員の増員が必要であると考えています。

整備士育成に指導員の増員を

岩手を支える自動車整備士を育成

千厩高等技術専門校分会

千厩高等技術専門校は、職業能力開発促進法に基づき職業に必要な専門知識と

技能の習得、雇用の安定と技能・技術者の地位の向上等を目的として一関市千厩

町に設置されている県立職業能力開発施設で開設されています。当校は、二級自動車整備士養成施設として自動車システム科(2年課程)を設置し、基礎的な学科実技をべー



▲内水面水産技術センター分会の皆さん



▲岩手オリジナルの養殖用種苗開発に向けて日々の作業は続く